

基準 7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①: 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学は、本庄と鍋島の2キャンパスからなり、校地面積は443,761㎡、校舎面積は148,852㎡、附属病院面積は70,310㎡となっている。校舎には、講義室、演習室、実験・実習室、マルチメディア語学演習のためのLM教室、自習スペース、学生用ラウンジ及び研究室を設置し、活用している(別添資料7-1-①-1)。また、共通利用の施設として、附属図書館、総合情報基盤センター、保健管理センター、運動施設、課外活動施設、大学会館、食堂施設、宿泊施設等を設置している(参照資料7-1-①-ア～イ)。体育館等の運動施設は、授業を実施する上で十分な設備を整備し、課外活動にも活用している(別添資料7-1-①-2)。これらの施設設備は、キャンパスマスタープラン2010(参照資料7-1-①-ウ)に沿って整備している。アメニティの改善として校舎のトイレ改修や講義室等のLED照明の導入や空調設備の改善整備を進めている(参照資料7-1-①-エ)。また、耐震化については、校舎等の改修工事に併せて進めており、保有面積の約98%が耐震性のある建物(発注予定を含む)となっている。(別添資料7-1-①-3)。

バリアフリー化については、バリア調査図を策定し、スロープや手すりの設置、扉の改修、トイレの身体障がい者対応化、駐車場や講義室での身体障がい者用スペースの確保等、施設のバリアフリー化を行っている(参照資料7-1-①-オ)。

安全、防犯面については、外灯を設置するとともに、時間外の建物の出入りをICカード身分証により管理している。また、学内の各所にAED(自動体外式徐細動器)を設置している。

別添資料7-1-①-1: 講義室等利用状況一覧
 別添資料7-1-①-2: 運動施設等利用状況一覧
 別添資料7-1-①-3: 耐震化推進状況図

参照資料7-1-①-ア: キャンパスマップ 本庄キャンパス
<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/index.html>

参照資料7-1-①-イ: キャンパスマップ 鍋島キャンパス
<http://www.saga-u.ac.jp/gaiyo1/campusmap/nabeshima.html>

参照資料7-1-①-ウ: 佐賀大学環境施設部 企業の皆様向けウェブページ
http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/kigyo/kigyo_main.html
 に入り、ページ右側の「佐賀大学キャンパスマスタープラン2010」をクリック

参照資料7-1-①-エ: 施設の整備内容(平成22～26年度)
http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/ippan/seibi/seibi_main.html

参照資料7-1-①-オ: 佐賀大学環境施設部ウェブページ(<http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/>)に入り、ページ右側の「ユニバーサルマップ」の各キャンパス名をクリック

【分析結果とその根拠理由】

本学の校地面積は基準面積 87,710 m²の約 5 倍、校舎面積は基準面積 69,786 m²の約 2 倍を有し、附属病院面積も基準面積 35,100 m²を上回っており、大学設置基準の規定を満たしている。また、キャンパスマスタープラン 2010 に沿って、バリアフリー化や安全・防犯面への配慮も踏まえた整備を進めている。また施設は設置目的に沿って有効に活用されている。

これらのことから、教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されている。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされている。

観点 7-1-②： 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

総合情報基盤センターを置き（参照資料 7-1-②-ア）、情報基幹ネットワークや教育・研究用の学術情報システム、大学データベース、電子図書館などの整備・維持、大学全体や地域の情報化支援等を行っており、機能的に管理・運用している（別添資料 7-1-②-1）。具体的には、学内の各建物及びキャンパス間のネットワークシステムを構築し、ほぼ全ての教室・自習スペースに無線 LAN 局（381 機）を設置している。また、本学独自開発の「Opengate」（ネットワーク利用認証システム）（資料 7-1-②-A）によるインターネット利用環境、全学生及び全教職員の利用者 ID の一元管理とシングルサインオン環境を整備し、教育研究に関わる多数のシステムへのシームレスな利用環境を提供するとともに、学術認証フェデレーション「学認」に参加することで電子ジャーナルへの自組織 ID を用いたアクセスなどの研究教育支援機能を充実している（参照資料 7-1-②-1）。

さらに、全学的に学生用 PC を設置し（資料 7-1-②-B）、情報処理教育、専門教育、履修登録、文献蔵書検索など、授業・自習に活用している（参照資料 7-1-②-ウ～エ）。総合情報基盤センターに設置された PC は、授業以外の時間帯には、学生の自主的な学習活動に利用でき、大学院生のセンター相談員を配置して利用支援を行っている。また、多要素認証の導入により、セキュリティに配慮しながら履修登録、就職支援における求人検索、進路確定報告など学外からでも利用できるよう利便性を図っている。

e ラーニングを推進・支援する環境として、e ラーニングスタジオ（参照資料 7-1-②-オ）を設置し、ネット授業コンテンツの制作と配信を行うシステムを整備充実しており、合計 170 以上の e ラーニング科目・コースを提供するなど、有効に活用している。

セキュリティ管理は、情報セキュリティポリシーに基づき、教職員向け情報セキュリティ及び情報リテラシー講習会等による啓発の取組とともにファイアウォールの設置・維持・監視、暗号化通信技術の導入、ユーザ認証の厳密化、学内外からの不正侵入への対策など、必要な対策を講じている。

資料 7-1-②-A： 情報ネットワークの活用状況

電子図書館	研究者基礎情報データベース、佐賀大学機関リポジトリ、貴重図書データベース
図書館ポータル	蔵書・雑誌検索、附属図書館施設予約、図書貸出予約、文献複写依頼、図書購入リクエスト、ブックレビュー、読書プランなどのサービス
教育用システム	情報リテラシー教育及び専門教育 Windows 環境と Linux 環境が利用可能
研究用システム	Solaris 環境で文書作成、情報収集や小規模数値計算が可能
教務システム	履修登録、成績確認・出力、シラバス参照、成績提出が Web で操作可能
就職システム	就職情報の提供、就職情報の交換が可能
医学部サブセンターシステム	医学文献、看護文献の検索
全般	インターネット接続、電子メール、電子ジャーナル閲覧

（出典：総合情報基盤センター資料、附属図書館ポータル）

資料 7-1-②-B: PC配置状況及び利用時間

設置場所		PC台数	利用時間
総合情報基盤センターメインセンター		219	月・火・木・金 8:30~19:00、水 8:30~13:00 16:00~19:00
総合情報基盤センター医学サブセンター		130	月~金 7:00~19:00
文化教育学部	情報処理室	53	月~金 8:00~19:00
経済学部	情報演習室	35	月~金 8:30~17:15 (院生 20:00)
	パソコン自習室	20	月~金 8:30~17:15
理工学部 (※ 各学科総計)		872	月~金 8:30~20:00 (概ねの時間帯、学科ごとに異なる)
農学部	情報演習室	49	月~金 8:50~19:30 (概ねの時間帯)
医学部	視聴覚室	32	月~金 7:00~19:00
	演習室	5	
	PBL室	26	毎日 8:00~24:00
附属図書館	本館	75	月~金 8:30~21:10、土・日・祝 10:00~19:00 (休業期は別途設定)
	医学分館	62	月~金 8:30~21:00、土・日・祝 10:30~18:30 (休業期は別途設定)
キャリアセンター		3	月~金 8:30~18:00

(出典:事務局、各学部・センター資料)

別添資料 7-1-②-1: 佐賀大学総合ネットワーク構成図

参照資料 7-1-②-ア: 総合情報基盤センター業務案内 ウェブサイト (<http://www.cc.saga-u.ac.jp/index.j.php>)

参照資料 7-1-②-イ: 統合認証基盤と Single Sign-On 連携

(http://www.gakunin.jp/?action=repository_uri&item_id=30&file_id=16&file_no=1)参照資料 7-1-②-ウ: 平成 27 年度情報処理演習室時間割 前学期 <http://www.cc.saga-u.ac.jp/plan/timetable/index.php>

参照資料 7-1-②-エ: 平成 27 年度情報処理演習室時間割 後学期 【未定につき訪問調査時までに関示】

参照資料 7-1-②-オ: eラーニングスタジオ ウェブサイト (<http://net.pd.saga-u.ac.jp/e-learning/>)

【分析結果とその根拠理由】

情報ネットワークを全学に整備し、ほぼ全ての教室・自習スペースから、容易にインターネットに接続できる環境と、学生用のPC及びeラーニング、電子図書館、図書館ポータルなどのシステムを提供し、日常的に活用されている。また、適切なセキュリティ管理を行っている。これらのことから、教育研究活動を展開する上で必要なICT環境が整備され、有効に活用されている。

観点 7-1-③: 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

附属図書館の施設は、本庄キャンパス本館 (5,332 m²+旧館 780 m²) 及び鍋島キャンパス医学分館 (1,769 m²) で構成しており、総面積 7,881 m²を有している。館内は、閲覧スペース、書架スペース、一般・集密・貴重書庫スペース等から成り、ラーニング・コモンズ、閲覧個室、グループ学習室、及びマルチメディアコーナーなど目的に応じた利用環境を提供している (別添資料 7-1-③-1、参照資料 7-1-③-7)。

ラーニング・コモンズは、授業時間外の主体的な学習スペースとしグループワーク等アクティブ・ラーニングが可能な 70 席を整備しておりさらに整備・拡充の予定である。

設備・備品として、自動入退館システム、図書自動貸出返却装置、利用者用PC等を備え、閲覧座席数は本館604席、医学分館172席の合計776席である。利用時間、貸出等の業務は開館カレンダー（資料7-1-③-A）のとおりであり、平日の有人開館時間を本館、医学分館ともに開設時から30～100分間延長している。また、閲覧・学習等の入館利用は、本館では教職員を対象に24時間可能である。

蔵書数は平成26年度末で図書が710,845冊、雑誌が11,858種で、各教育研究分野の図書（視聴覚資料を含む）、国内外の学術雑誌、大学論文集、紀要等を系統的・機能的に整理している。また、図書、学術雑誌、電子ジャーナル等の資料を包含した蔵書データベースをウェブ上で公開している。この他、13種類の文献データベースを導入し、教育・研究活動における情報収集に供している。

教育研究用図書・雑誌の整備については、附属図書館運営委員会のもとに蔵書整備や学生用資料の収集等について審議する選書専門委員会（参照資料7-1-③-イ〜リ）を置いて蔵書整備計画に基づき整備している。シラバスに掲載された参考図書及び教員等により推薦された図書も計画的に収集している。学生希望図書は、新入生オリエンテーションでの案内や、学生で組織する学生選書委員会の選書ツアーとその広報活動等（参照資料7-1-③-エ）により広く学生に周知され、平成26年度は400冊を超えるリクエストがあり平成21年度の約2倍となった。また、平成25年度からの「全学統一英語能力テスト」実施に伴うTOEIC関連参考書や多読本の整備が特筆できる。資料の整備により語学分野の貸出冊数は平成25年度に約7,700冊となり平成21年度の5倍となった。

電子ジャーナルは、学内アンケートや利用調査等を踏まえ整備方針（別添資料7-1-③-2）により、約11,900タイトルを維持・確保している。また、リンクリゾルバ（文献入手支援ツール）を導入して利便性を高めている。電子ブックについては、学生の総学習時間増を支援するため、平成24年度より学外からも利用できる和書を中心に積極的に導入を進めている。

これらの利用実績としては、平成26年度は本館と医学分館併せて465,850人（本館296,127人、医学分館169,723人）が入館し、54,643冊（本館41,898冊、医学分館12,745冊）の館外貸し出しがある。平成26年度の学生一人当たりの年間貸出数は6.9冊であり、最新の『2016年版大学ランキング（朝日新聞出版）』における国立の総合大学の平均9.3冊を下回っているものの、前回の認証評価で、学生用図書の充実が望まれる旨指摘を受けた平成21年度の3.9冊から比較すると1.77倍となっている（資料7-1-③-B）。本を借りた学生の割合も平成23年度以降は本を借りなかった学生の割合を上回り、平成26年度は58%の学生が本を借りている。（改善の取組は観点9-3-③を参照）

電子ジャーナルは平成14年度の導入以来利用が伸び、平成26年度は148,000件の利用となっている。また、平成25年度末に設置したラーニング・コモンズは、平成26年度に入館者の1/3を占める90,000人以上が利用し、グループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニングに利用されている。（資料7-1-③-C）

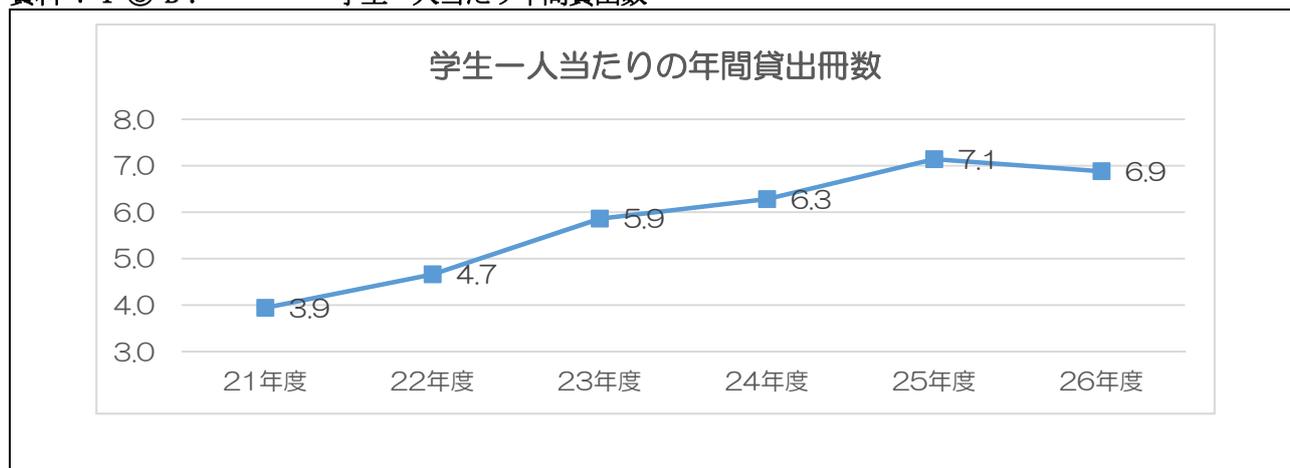
資料 7-1-③-A: 附属図書館の開館カレンダー

本 館			
学 期	曜 日	時 間	備 考
授業期間 (試験期間含む)	月～金曜日	8:30 ～ 21:10	(休館日) 2月・3月・8月の第4木曜日 (祝日の場合は開館する)
	土・日・祝日	10:00 ～ 19:00	
授業期間以外	月～金曜日	8:30 ～ 20:10	夏季一斉休業日 年末年始
	土・日・祝日	10:00 ～ 19:00	

医学分館			
学 期	曜 日	時 間	備 考
授業期間	月～金曜日	8:30 ～ 21:00	(休館日) 年末年始
	土・日・祝日	10:30 ～ 18:30	
授業期間以外	月～金曜日	8:30 ～ 21:00	休業期の土・日曜日・祝日 *休業期の土・日曜日・祝日で授業が開講されている日は、通常の開館
	土・日・祝日	閉館	

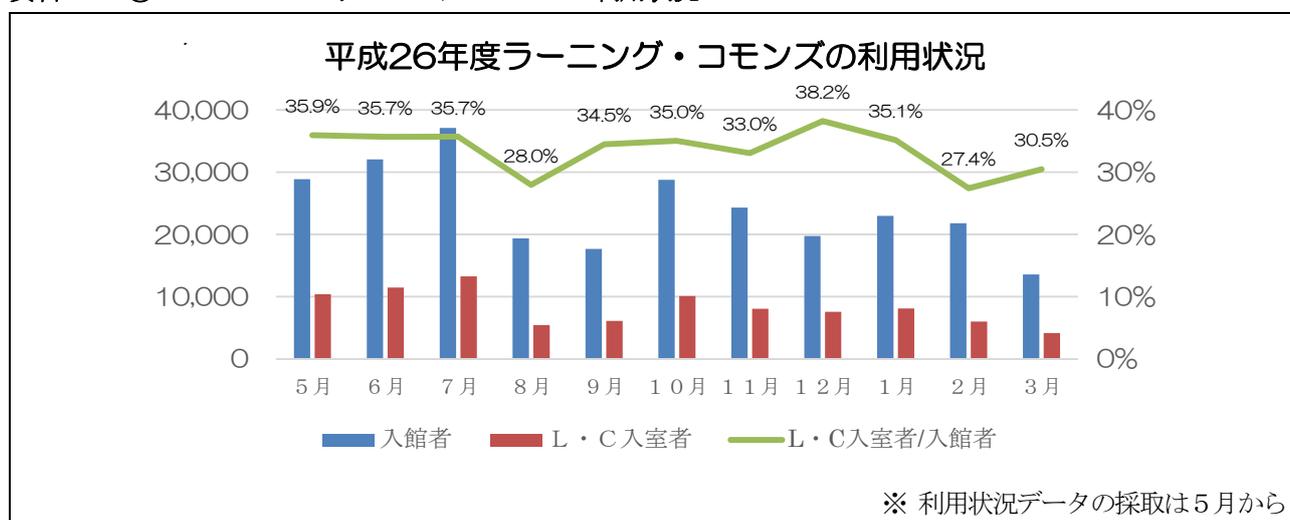
(出典：佐賀大学附属図書館利用規程 別表 (第5条関係))

資料 7-1-③-B: 学生一人当たり年間貸出数



(出典 附属図書館資料)

資料 7-1-③-C: ラーニング commons の利用状況



※ 利用状況データの採取は5月から

(出典 附属図書館資料)

別添資料 7-1-③-1 : 図書館利用のしおり	
別添資料 7-1-③-2 : 電子ジャーナル整備方針	
参照資料 7-1-③-ア : 附属図書館 ウェブサイト	(http://www.lib.saga-u.ac.jp/)
附属図書館本館館内案内図	ウェブページ (http://www.lib.saga-u.ac.jp/service/floor_main.html)
附属図書館医学分館館内案内図	ウェブページ
	(http://www.lib.saga-u.ac.jp/service/floor_medicine.html)
参照資料 7-1-③-イ : 附属図書館運営委員会規程	(https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/730.html)
参照資料 7-1-③-ウ : 佐賀大学附属図書館選書専門委員会要項	
	(https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/731.html)
参照資料 7-1-③-エ : 学生選書	ウェブページ
	(http://sagaul.blog133.fc2.com/)

【分析結果とその根拠理由】

本庄キャンパス本館と鍋島キャンパス医学分館を整備しており、各キャンパスにおける教育研究組織・教育課程に即した図書資料等を所蔵し、系統的・機能的に配架するとともに、電子ジャーナル及び蔵書データベース、文献データベース等の提供を行っている。閲覧スペースに加えて、ラーニング・commons、学習室や利用者用PC等を備え、一部自動入退館システムによる24時間利用を可能にしている。学生希望図書や「全学統一英語能力テスト」と連携した整備も効果を上げている。

学生一人当たりの年間貸出数は国立の総合大学の平均を下回っているものの、平成26年度は平成21年度の1.77倍となり、本を借りる学生の割合も平成23年度に5割を超えた。

これらのことから、図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されている。

観点 7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

各学部・研究科に自習スペースや学生用ラウンジを設け、インターネットが利用可能なパーソナルコンピュータ(PC)、無線LANや情報コンセントを設置することにより、学生が自主的に学習できる環境を整備している。鍋島キャンパスでは、学生証による入室管理により、PBL学習室及び演習室を夜間までグループ学習室として提供しており、多くの学生に利用されている。

総合情報基盤センターの演習室(観点7-1-②参照)や附属図書館(観点7-1-③参照)においてもPCを利用した自主的学習環境を整備しており、学生に利用されている。附属図書館では、学生の要望に基づき開館時間を延長するとともに、ラーニング・commonsを整備してアクティブ・ラーニングなどに開放し、多くの学生が利用している(資料7-1-③-C【再掲】)。また、全学教育機構には、語学の自主的学習のため、LM教室、LM自習室を設け、インターネット配信の英語学習支援システム(e-sia)や各種外国語の教材ソフト(CD、CD-ROM)を整備している。

また、授業のない時間の講義室や学部などで整備した自学自習室などを自習環境として提供している。

【分析結果とその根拠理由】

各学部・研究科、などに自主的学習スペースを確保し、無線LANが利用可能な環境を整備し、学生に提供

している。全学生を対象に、総合情報基盤センターと附属図書館にコンピュータ環境が整った自主的学習環境を整備している。全学教育機構には、語学学習のためのLM教室やLM自習室を設けている。これらのことから、自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されている。

観点 7-2-①： 授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

学士課程では、学部、学科・課程ごとに新入生オリエンテーションを実施し、履修案内等の資料（別添資料 7-2-①-1）を配布するとともに、教育目的、学習内容の概要、履修方法等について説明を行っている。また、本庄地区では、新入生オリエンテーション終了後に、在学生在が履修相談に応じる「新入生アドバイザー」を実施しており、新入生の評判も良い（別添資料 7-2-①-2）。さらに、コース及び卒業研究への配属時の学習目的・授業科目の内容等のガイダンス、大学入門科目等の講義の中などでの今後の選択の参考になる指導や助言をしている。大学院課程においても、専攻ごとに新入生オリエンテーションを実施し、教育目的、コース別の履修モデルや研究計画及び学位審査に関する説明等のガイダンスを実施している（別添資料 7-2-①-3）。これらのガイダンスにより、学生は各教育課程の理解を深め、履修科目の選択や履修手続き、学習・研究活動等を円滑に行っている。

別添資料 7-2-①-1： 学士課程新入生オリエンテーションの日程表、及び配布資料一覧（部局例示）

別添資料 7-2-①-2： 新入生アドバイザー実施状況

別添資料 7-2-①-3： 大学院課程新入生オリエンテーションの日程表、式次第及び配布資料一覧（部局例示）

【分析結果とその根拠理由】

入学時のほか、学部・研究科等の特性に応じてオリエンテーションやガイダンスを開催し、教育目的、学習内容、履修モデル、履修方法、研究計画及び学位審査等に関する説明を行っている。特に新入生に対しては、上級生がアドバイスをを行う制度を導入しており、新入生の評判も良い。これらにより、授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されている。

観点 7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点に係る状況】

全学的な学生相談体制としては、理事（教育・学生担当）を室長とする「学生支援室」において総合的な学生支援に関する学生のニーズ把握と支援策の検討・実施を行っている（資料 7-2-②-A）。全ての教員がオフィスアワーを設け、その時間をシラバスに掲載し、学生に周知している。学生一人一人に教員がチューター（担任）となり（別添資料 7-2-②-1）、年 2 回の面談を通じて、学修に関する助言を行っている（別添資料 7-2-②-2）。平成 23 年 4 月入学生からは、ラーニング・ポートフォリオ（LP）を活用してチューター活動を行っている。学生

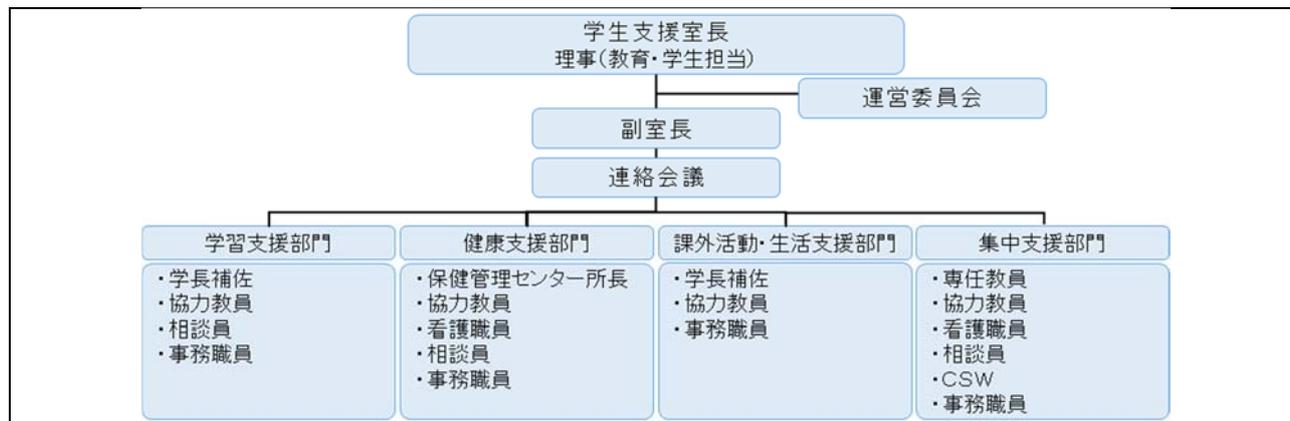
生活課及び学生サービス課を窓口とした「学生なんでも相談窓口」(参照資料 7-2-②-A) では、学生の各種の相談に応じている(資料 7-2-②-B)。また、上級生が学習上の相談に応じる「学習アドバイザー」制度を実施し、学生による学習支援を行っており(別添資料 7-2-②-3)、観点7-2-①で述べた「新入生アドバイザー」制度とともに、効果をあげている。特別な支援が必要と考えられる学生には、チューター(担任)と学生支援室の集中支援部門の教員及びキャンパスソーシャルワーカー(CSW)等が連携して、学生のニーズ把握と支援策の検討・実施を行っている。特に発達障がい(傾向含む)をもつ学生については、個別の支援策を検討し、授業担当教員へ配慮を依頼している。

障がいがある学生は、平成26年度は25人が在籍しており、平成22年度12人、平成23年度12人、平成24年度15人、平成25年度18人と増加傾向にある。このような学生への支援として、ノートテイクの配置、FM補聴器の貸与、外部委託による手話通訳者の配置や教員による授業方法等の配慮を行っている(別添資料 7-2-②-4)。

外国人留学生は、学士課程68人、大学院課程88人、特別聴講学生等61人(平成27年5月1日現在)が在籍(資料 7-2-②-C)しており、指導教員及び学生チューター149人を配置し、学習支援等を行っている(資料 7-2-②-D)。

社会人学生は、学士課程2人、大学院課程175人(平成27年5月1日現在)が在籍しており、授業ビデオ及びeラーニングの活用などにより学習支援を行っている。

資料 7-2-②-A: 学生支援室体制図



(出典：学生支援室資料)

資料 7-2-②-B: 「学生なんでも相談窓口」相談対応件数

年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
件数	55	49	38	34	35	
内訳	修学	20	23	21	13	12
	進路	4	4	1	3	3
	生活	11	5	4	3	3
	健康	0	0	2	0	0
	その他	20	17	10	15	17

(出典：事務局資料)

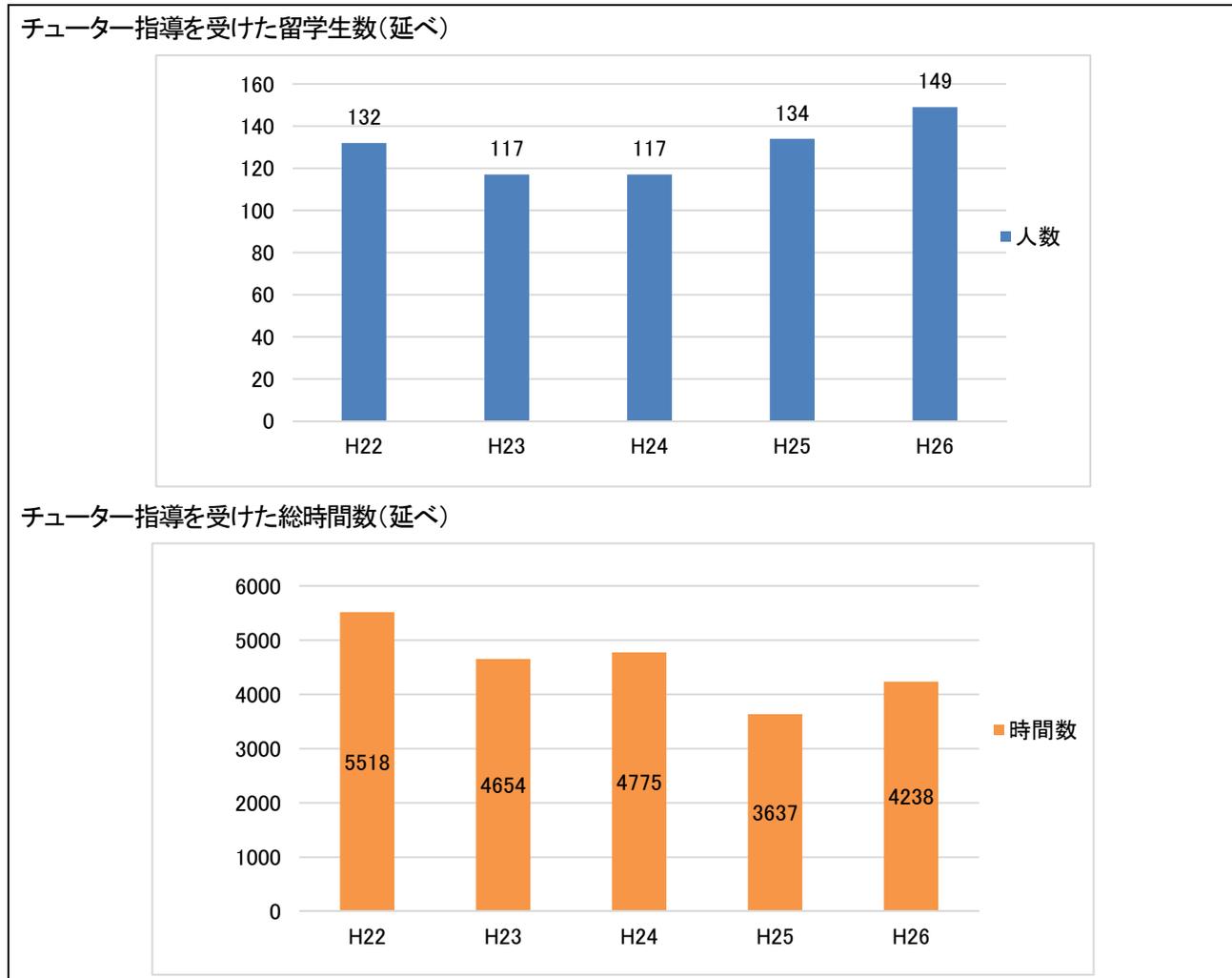
資料 7-2-②-C : 留学生数 (平成 22~26 年度)

年度(平成)		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
学種別留学生数						
学部	文化教育学部	7	7	13	16	12
	経済学部	19	24	27	26	26
	医学部	0	1	1	1	1
	理工学部	23	20	30	29	29
	農学部	2	2	3	3	3
学部 計		51	54	74	75	71
大学院	教育学研究科	22	18	18	18	19
	経済学研究科	15	14	11	14	10
	医学系研究科(修士)	0	0	4	4	0
	医学系研究科(博士)	12	10	5	4	2
	工学系研究科(博士前期)	26	24	15	13	13
	工学系研究科(博士後期)	67	69	59	52	39
	農学研究科	12	11	9	7	6
	鹿児島大学連合農学研究科(博士)	20	22	22	14	7
大学院 計		152	168	143	126	96
特別聴講学生・日研生(※)		54	49	47	50	60
研究生	文化教育学部	2	0	1	1	1
	経済学部	2	1	0	1	1
	理工学部	1	0	0	0	0
	教育学研究科	7	11	5	3	0
	経済学研究科	5	7	5	1	2
	医学系研究科	0	1	0	0	0
	農学研究科	1	0	1	0	0
	工学系研究科	2	2	1	1	0
研究生 計		20	22	13	7	4
特別研究生		2	1	2	3	2
科目等履修生		1	3	0	0	0
合計		302	297	279	261	233

(※) 日研生…日本語・日本文化研究留学生

(出典：事務局資料)

資料7-2-②-D: 留学生のための学生チューターの実施状況 (平成22～26年度)



(出典：事務局資料)

別添資料7-2-②-1：チューター（担任）制度に関する実施要項
 別添資料7-2-②-2：チューター（担任）制度ガイドブック-第2版-（抜粋）
 別添資料7-2-②-3：学習アドバイザー実施状況
 別添資料7-2-②-4：障がいがある学生の受入状況及び学習支援実施状況

参照資料7-2-②-ア：学生なんでも相談窓口 ウェブページ(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sodan.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学生支援室において、総合的な学生支援に関する学生のニーズ把握と支援策の検討・実施を行っており、ラーニング・ポートフォリオを活用した「チューター（担任）制度」を実施するなど、個別指導による綿密な学習支援を行っている。また、1、2年次生を対象に、上級生が学習上の相談に応じる「学習アドバイザー」制度を実施し、学生による学習支援を行っている。

留学生に対し指導教員及び学生チューターを配置するなど個別の学習支援等を行っているほか、障がいがある学生には、学生から募集したノートテイク及び外部の手話通訳者を配置するなどの支援、社会人学生には、eラーニングの活用など学生の実情やニーズに合わせた学習支援を行っている。

これらにより、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行わ

れている。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われている。

観点 7-2-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

該当なし

観点 7-2-④： 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

大学公認学生サークルは、平成 27 年 4 月時点で 111 団体あり（資料 7-2-④-A、参照資料 7-2-④-ア）、教員が各団体の顧問を担当している。また、毎月 1 回開催される体育協議会、文化協議会へ各協議会からの要望により職員が出席し、意見交換を通じて学生からの要望を聴取している。大学祭（本庄キャンパス）においては、実行委員会からの要望により物品の調達や貸与、学内関係者との連絡調整、各種手続きの助言を行うなど、必要な支援を行っている。

学生委員会（参照資料 7-2-④-イ）が「学生支援室（課外活動・生活支援部門）」と連携して（資料 7-2-②-A【再掲】）、学生の課外活動支援に関する全学的な検討・企画・調整等を行っており、毎年 1 回「サークル・リーダーシップセミナー」を開催している（別添資料 7-2-④-1）。サークル活動支援施設として、本庄キャンパスに文化系及び体育系の各サークル会館を、鍋島キャンパスに課外活動施設を設置し、要望調査に基づき、課外活動用の備品提供や施設整備による支援を行っている（別添資料 7-2-④-2、参照資料 7-2-④-ウ）。また、学生センターのウェブサイトや大学案内等では、公認サークル、ボランティア団体情報、外部からのボランティア依頼などの情報を提供しており（参照資料 7-2-④-エ）、ボランティア団体「チャリさがさいせい」が、学内の放置自転車問題に取り組む再生自転車のレンタサイクル活動を実施し市民の利便性に貢献するとともに循環型社会構築を訴える活動が評価され、平成 24 年度第 10 回全国大学生環境活動コンテストにおいて環境大臣賞並びに会場賞を受賞し、農業サークルの「F o r S」が住友生命保険主催の平成 26 年度「YOUNG JAPAN ACTION」プロジェクトで大賞を受賞した。

学生表彰制度を設けて、サークル活動やボランティア活動において顕著な活動や成績を修めた団体及び個人を表彰することにより、課外活動を活性化させている（参照資料 7-2-④-オ）。

資料 7-2-④-A： 課外活動団体数（平成 27 年度）

	課外活動団体	本庄キャンパス	鍋島キャンパス
	体育系団体	38	23
	文化系団体	29	21

（出典：事務局資料）

別添資料 7-2-④-1：サークル・リーダーシップセミナー実施要項
別添資料 7-2-④-2：物品提供や施設整備による課外活動団体への支援状況一覧

参照資料 7-2-④-ア：サークル活動の概要 ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kagai.html>)

参照資料 7-2-④-イ：佐賀大学学生委員会規則
(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/415.html>)

参照資料 7-2-④-ウ：佐賀大学サークル会館使用規程 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/370.html>)

参照資料 7-2-④-エ：学生に対するボランティア情報の提供 ウェブページ
(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/volunteer.html>)

参照資料 7-2-④-オ：学生表彰について (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakuseiseikatu/hyousyou.html.html>)

【分析結果とその根拠理由】

学生サークルへの顧問教員の配置、学生委員会と「学生支援室（課外活動・生活支援部門）」の連携によるサークル・リーダーシップセミナーの開催、要望調査に基づいた課外活動備品提供やサークル活動支援施設整備などを行っている。これらのことから、学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われている。

観点 7-2-⑤： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

学習支援（観点 7-2-②）の取組と同様に、学生支援室を中心として生活支援に関する学生のニーズを把握して（参照資料 7-2-⑤-ア～イ、別添資料 7-2-②-1～4【再掲】）、以下のような支援を行っている。

学生の健康管理に関する専門的業務を行う施設として保健管理センターを設置し、（参照資料 7-2-⑤-ウ）本庄キャンパスに医師及び看護師を各 2 人、保健師を 1 人、鍋島キャンパスには分室として医師、看護師、臨床心理士、及び保健師を各 1 人配置して、学生定期健康診断、健康相談、応急処置など適切な対応を行っている。慢性疾患がある学生に対しては、保健管理センターが継続的に学生の状況を把握し、チューター（担任）と連携して、学習支援とともに生活支援の助言・対応を行っている。本庄地区の保健管理センターには、心の悩みやハラスメント等の相談対応や学生のストレス解消を目的としたリラクゼーション・ルームを設置している。学生のメンタルヘルス対策は、本庄地区においては新入生、編入生、卒業予定学生、大学院生を対象に、鍋島地区においては新入生、医学科 2・4 年生、看護学科 3 年生を対象に健康相談調査（メンタルスクリーニング）を実施し、必要に応じて医師や臨床心理士が対応している（別添資料 7-2-⑤-1）。平成 26 年度本庄地区においては、メンタルスクリーニングの結果、352 人の 1 次面接を行い、37 人の悩みを抱える学生を発見し、継続的な面談を実施している。学生の悩み相談に対しては、「学生なんでも相談窓口」に「学生カウンセラー相談窓口」を設け、保健管理センターのスタッフに加えて、本庄キャンパスでは非常勤の臨床心理士 2 人が、鍋島キャンパスでは常勤の臨床心理士 1 人が学生の相談に応じている（別添資料 7-2-⑤-2、参照資料 7-2-⑤-エ）。

これらの活動に加え、平成 23 年度からアウトリーチ型の支援を行うキャンパスソーシャルワーカー制度を導入し、チューター（担任）や学生カウンセラー等と連携して、何らかの理由で授業に出席できない学生に対し、

電話やメールで連絡を取り、場合によっては直接学生のアパート等へ出向き相談を受ける等の活動を行っている(別添資料 7-2-⑤-3)。

平成 25 年度には学生支援室に「集中支援部門」を設け、専任教員を 1 人配置し、身体障がい、知的障がい、精神障がい(発達障がいを含む。)など障がいがある学生や、心に悩みを抱え修学及び学生生活が困難となった学生で、通常の指導や支援では対応できない学生に対応する体制を整えた(資料 7-2-⑤-A 別添資料 7-2-⑤-4)。

特に、ハラスメントに関する相談は、「ハラスメント等防止規則」に基づき、学内に 18 人のハラスメント相談員、特別相談員(非常勤、臨床心理士)を配置し、保健管理センターと連携して相談に対応している(参照資料 7-2-⑤-オ〜カ)。

就職に関する支援は、キャリアセンター(参照資料 7-2-⑤-キ)が中心となり、各部局の就職委員会と連携して実施し、採用情報等の就職支援情報提供(資料 7-2-⑤-B)や、企業研究会、合同・個別会社説明会、エントリー対策講座、面接対策講座等、就職活動の各段階に合わせたセミナー等を企画・開催し、また、就職相談員による支援を行っている(別添資料 7-2-⑤-5)。なお、未就職のまま卒業した学生への支援として、卒業後も既卒者に対する求人情報の紹介などの支援を行っている。

平成 22～23 年度にかけて、学生の就職実績などを有する企業等(100 社)に学長による企業訪問を実施し、就職先拡大を図った(別添資料 7-2-⑤-6)。

また、就職データの IR 分析を元に、学科等に対し学長がヒアリングを行い、執行部と各学科等による現状の共有と改善策の検討を行い(別添資料 7-2-⑤-7)、平成 25 年度及び平成 26 年度は進路不明者をゼロにするなど(別添資料 7-2-⑤-8) 就職支援策を強化した。

留学生には、入学時に外国人留学生オリエンテーション(別添資料 7-2-⑤-9～10)を開催しているほか、学生によるチューター(観点 7-2-2 で記載)を付け、役所等の諸手続き時の同行などの日常生活に関する支援をしている(資料 7-2-②-D【再掲】、別添資料 7-2-⑤-11)。

また、県内企業への就職を希望する留学生向けセミナーを開催している(別添資料 7-2-⑤-12)。

資料7-2-⑤-A： 学生支援パンフレット



【学生支援に関する問い合わせ先】

本庄キャンパス
「学生なんでも相談窓口」
場所: 学務部学生生活課
時間: 8時30分～17時15分
電話: 0952-28-8200
Mail: voice@mail.admin.saga-u.ac.jp

本庄キャンパス学生センター
「CSルーム(集中支援部門)」

集中支援部門

本庄キャンパス保健管理センター
「リラクゼーションルーム」

鍋島キャンパス
「学生なんでも相談窓口」
場所: 学生サービス課
時間: 8時30分～17時15分
電話: 0952-34-3132
Mail: gkseigkm@mail.admin.saga-u.ac.jp

佐賀大学 学生支援室

Student Support

概要

学生支援室は、学生支援の推進を図るために、佐賀大学が法人化された平成16年4月に設置されました。学生支援室には、専任教員を始め、各学部や保健管理センターなどから選ばれた協力教員、相談員、看護職員やキャンパス・ソーシャルワーカーなどが配置されています。そして、4つの部門が設けられ、各部門間で悩みや相談などに関する情報の共有と支援などの連携を図りながら、総合的かつ効果的な学生支援を行っています。特に集中支援部門は、集中的な救済を要する障害学生や心の悩みを抱えた学生を支援するために平成25年8月に新しく設置した部門です。

学生支援室の業務内容

- 学習支援部門**
修学の指導、支援及び相談に関する企画等
- 健康支援部門**
心身の健康指導及び相談に関する企画等
- 課外活動・生活支援部門**
課外活動に対する助言、相談及び情報提供に関する企画等や学生生活の指導、支援及び相談に関する企画等
- 集中支援部門**
集中的に支援を要する学生(障がいを持った学生など)に関わる相談、支援及び交流に関する業務

学生支援室のスタッフ

- 学生支援室長、副室長(専任教員)
- 学習支援部門
 - 学長補佐、協力教員、相談員、事務職員
- 健康支援部門
 - 保健管理センター所長、協力教員、看護職員、相談員、事務職員
- 課外活動・生活支援部門
 - 学長補佐、協力教員、事務職員
- 集中支援部門
 - 専任教員、協力教員、看護職員、相談員、キャンパス・ソーシャルワーカー、事務職員

*○部門長

相談窓口

- ◆学生相談窓口
学生相談窓口では、大学生活におけるあらゆる疑問や悩み、困っていることを聞いて、その内容に応じて、より適切な解決方法や相談員(学内外の関係者)を紹介しています。
- ◆学生カウンセラー相談窓口
学生カウンセラー相談窓口では、心や身体の相談や悩み、困っていることなどを支援します。相談は、直接、相談したいカウンセラーのメールアドレスか電話番号に連絡してください。また、相談内容等の秘密は堅く守られます。
- ◆保健管理センター 学生相談室
学生相談室は「学生の身体・精神面の健康上の問題」について個人の相談を希望する学生のために設けられたもので、いつでも相談できます。相談は、平日8時30分～17時15分の間で、直接か電話で相談することが可能です。
本庄キャンパス: 0952-28-8181
鍋島キャンパス: 0952-34-3215

集中支援部門による支援

障がい・悩みを抱える学生

相談 ↓ 支援 ↑

出席管理システム

3回以上欠席学生の抽出 ↓

相談 ↓ 支援依頼 ↑

授業担当教員
チューター

相談 ↓ 支援 ↑

相談窓口
学生生活課

相談 ↓ 支援 ↑

集中支援部門による情報集約と支援

- ◆専門スタッフ
医師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・看護師
- ◆業務
情報収集・分析、支援、コンサルテーション
- ◆連絡先
内線: 8943(CSW)/8367(担当者)
E-Mail: i-suppo@mail.admin.saga-u.ac.jp

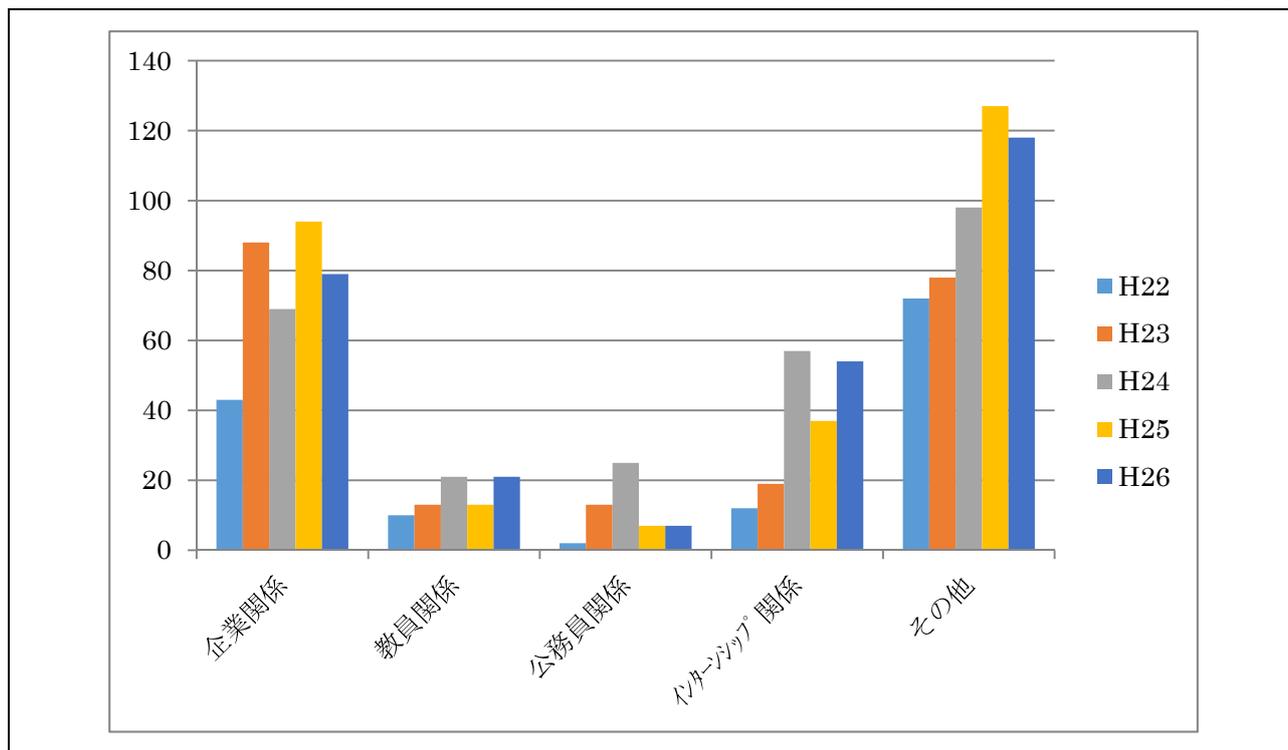
連携

関連部署・委員会 保健管理センター

ハラスメント相談窓口

(出典：学生支援室資料)

資料 7-2-⑤-B： キャリアセンターの電子メールによる就職支援情報の提供状況（平成 22～26 年度）



(出典：キャリアセンター資料)

- 別添資料 7-2-⑤-1：メンタルヘルスクリーニングの実施状況
 別添資料 7-2-⑤-2：カウンセリング実施状況（平成 24 年度）
 別添資料 7-2-⑤-3：キャンパスソーシャルワーカー制度の概要と対応件数
 別添資料 7-2-⑤-4：集中支援部門活動内容
 別添資料 7-2-⑤-5：就職支援セミナー、企業研究会、模擬面接等、就職に係る各種セミナー等の開催及び参加状況
 別添資料 7-2-⑤-6：学長による企業訪問一覧
 別添資料 7-2-⑤-7：学部との就職支援に関するヒアリング資料
 別添資料 7-2-⑤-8：就職率一覧（平成 27 年 5 月現在）
 別添資料 7-2-⑤-9：外国人留学生オリエンテーションプログラム
 別添資料 7-2-⑤-10：保証人願 様式
 別添資料 7-2-⑤-11：学生チューター制度（チューターの手引き）
 別添資料 7-2-⑤-12：産学官国際交流セミナーポスター

- 参照資料 7-2-⑤-ア：国立大学法人佐賀大学学生支援室設置規則 (<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/627.html>)
 参照資料 7-2-⑤-イ：学生なんでも相談窓口 ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sodan.html>)
 参照資料 7-2-⑤-ウ：保健管理センター ウェブサイト (<http://www.suhcc.saga-u.ac.jp/>)
 保健管理センター鍋島分室 ウェブサイト (<http://www.hoken.med.saga-u.ac.jp/>)
 参照資料 7-2-⑤-エ：学生カウンセラー相談窓口開設について ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sodan.html>)
 参照資料 7-2-⑤-オ：佐賀大学ハラスメント等防止規則(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/884.html>)
 参照資料 7-2-⑤-カ：ハラスメントに関する相談窓口 ウェブページ (<http://www.saga-u.ac.jp/somu/sekuharatou.html>)
 参照資料 7-2-⑤-キ：国立大学法人佐賀大学キャリアセンター規則 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/admi/carrer.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学生支援室を中心に、学生のニーズを把握するとともに、保健管理センター、学生なんでも相談窓口、学生カウンセラー、ハラスメント相談窓口等による相談・支援を、それぞれの連携体制のもとに行っている。また、キ

キャリアセンターと各部局の就職委員会が連携して、就職相談や就職支援情報の提供等を行っており、学生のニーズに応じた学生生活支援を適切に実施している。

学生支援室に設置された集中支援部門が、障がいがある学生や心に悩みを抱え集中的に支援を要する学生への支援を実施している。

留学生に対しては、学生チューター制度等による日常生活支援や住居を確保するための取組など、生活支援体制を整備しており、多数の留学生が利用している。

これらにより、生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われている。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われている。

観点 7-2-⑥： 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【観点到に係る状況】

学部及び大学院学生に対し、入学料・授業料の免除、奨学金の斡旋・給付、寄宿舎の整備等により、経済面の援助を行っている。

(1) 入学料・授業料免除

本学の免除基準により半額免除、全額免除を実施している（資料 7-2-⑥-A、参照資料 7-2-⑥-1）。なお、平成 23 年度から授業料免除にかかる特別枠を設け（別添資料 7-2-⑥-1）、平成 23 年度は 11,600 千円を、平成 24 年度は 5,976 千円を特別枠として対象者を拡大した。

(2) 奨学金

日本学生支援機構、地方公共団体等による奨学金については（参照資料 7-2-⑥-1）、申請や手続きの支援を行っており、過半数の学生が利用している（資料 7-2-⑥-B）。日本学生支援機構の家計急変並びに災害に伴う緊急・応急採用に関する募集についても周知しており、数人が採用されている（別添資料 7-2-⑥-2）。

大学独自の奨学金「かささぎ奨学金」（参照資料 7-2-⑥-1）として、平成 23 年度から予約型奨学金を給付している。入学前の申請により佐賀大学に強く入学を希望する成績優秀な学生を奨学生として採用し一定の条件の下に在学期間中も給付を継続することにより、愛校心にあふれ優れた人材を育成することを目的としている（資料 7-2-⑥-C）。

留学生に対しては、本学の佐賀大学基金奨学金などによる支援とともに、他の奨学金制度の申請を支援・推進している（資料 7-2-⑥-D）。

(3) 寄宿舎の整備等

学生寄宿舎については、収容人員 100 人の男子棟と 50 人の女子棟からなる楠葉寮を本庄キャンパスに隣接して設置し、1 か月 5,300 円の寄宿料で学生に提供している（参照資料 7-2-⑥-E）。また、留学生の住居確保のために、国際交流会館に単身向け 40 室、夫婦向け 3 室、家族向け 4 室を設けているほか、留学生がアパート等へ入居する際に、副学長が保証人になることによって入居や転居をスムーズに行う支援を行っており、平成 26 年度は 75 人の留学生の保証を行った（別添資料 7-2-⑥-3）。

(4) その他

学生センターにおいて、アルバイトの紹介の支援を行っている（参照資料 7-2-⑥-F）。紹介するアルバイトは深夜に及ぶものや建設現場でのアルバイトは紹介しないこととしており、学生生活に支障のないように配慮して

いる。

これらの制度等の情報は、かささぎ奨学金については募集要項により、その他の制度については入学手続の書類に募集案内を同封して周知するとともに、入学時オリエンテーションで学生便覧を配布して説明している。さらに、これらの案内情報をウェブサイト（参照資料7-2-⑥-ア～オ）や学生掲示板を通じて周知を徹底している。

資料7-2-⑥-A： 授業料免除適用者数

区分	H22 前期	H22 後期	H23 前期	H23 後期	H24 前期	H24 後期	H25 前期	H25 後期	H26 前期	H26 後期	
全額	28	82	56	85	66	68	304	220	277	387	(人)
半額	841	893	865	892	842	894	571	739	570	506	(人)
計	869	975	921	977	908	962	875	959	847	893	(人)
免除総額	120	141	130	142	131	138	158	158	150	171	(百万円)

(出典：学生委員会資料)

資料7-2-⑥-B: 奨学金の貸与状況(平成26年度)

奨学生数 SCHOLARSHIPS

(平26.9.1現在)
As of Sep 1, 2014

区分 Category	学生数 Enrollment (A)	日本学生支援機構 Japan Student Services Organization			比率 Percentage (B)/(A) %	
		第一種 First Category Scholarship	第二種 Second Category Scholarship	合計 Total (B)		
学部等 Faculties, etc.						
文化教育学部 Culture and Education	1,103	265	364	629	57.0%	
経済学部 Economics	1,187	301	397	698	58.8%	
医学部 Medicine	897	215	246	461	51.4%	
理工学部 Science and Engineering	2,260	433	766	1,199	53.1%	
農学部 Agriculture	661	167	171	338	51.1%	
計 Total	6,108	1,381	1,944	3,325	54.4%	
大学院 Graduate Schools	教育学研究科 Education	92	27	10	37	40.2%
	経済学研究科 Economics	16	0	0	0	0.0%
	医学系研究科 (修士課程) Medicine(Master's Course)	57	3	3	6	10.5%
	医学系研究科 (博士課程) Medicine (Doctoral Course)	136	3	2	5	3.7%
	工学系研究科 (博士前期課程) Science and Engineering (Master's Course)	413	146	84	230	55.7%
	工学系研究科 (博士後期課程) Science and Engineering (Doctoral Course)	80	11	2	13	16.3%
	農学研究科 Agriculture	77	28	16	44	57.1%
計 Total	871	218	117	335	38.5%	
合計 Grand Total	6,979	1,599	2,061	3,660	52.4%	

(出典: 佐賀大学概要)

資料 7-2-⑥-C: かささぎ奨学金申請者、採用者数

年度	学部	文化教育学部		経済学部		医学部		理工学部		農学部	
		推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般
24	申請者	7	178	5	143	12	106	1	460	8	137
	採用者	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1
25	申請者	63	232	51	164	98	157	38	541	42	154
	採用者	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1
26	申請者	52	214	63	196	124	176	66	533	33	156
	採用者	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1

(備考) 推薦は推薦入試受験者。一般は一般入試(前期)受験者

(出典: 事務局資料)

資料 7-2-⑥-D: 私費外国人留学生等の奨学金受給者数(平成 22~26 年度)

奨学金名	年度				
	22	23	24	25	26
(独) 日本学生支援機構 学習奨励費	22	21	12	10	8
(独) 日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ)	20	27	5	26	29
(独) 日本学生支援機構 日韓大学生交流事業	3	4	4	-	-
佐賀県: 県民協働による私費留学生支援事業	8	9	7	8	9
佐賀市留学生奨学金	18	17	17	17	18
日揮・實吉奨学金	2	2	2	2	2
ロータリー米山奨学金	4	5	5	4	5
平和中島財団奨学金	0	0	0	1	0
アシュラン国際奨学金	2	3	2	2	2
佐川留学生奨学金	0	1	1	0	0
外国政府派遣奨学金	21	23	43	37	27
佐賀大学大学院戦略的国際人材育成プログラム	7	9	10	14	13
佐賀大学医学部学術国際交流基金	0	3	4	4	1
佐賀大学留学生奨学金	2	3	0	0	0
佐賀大学基金奨学金	10	10	10	10	10
木下記念和香奨学金	1	1	1	1	1
佐賀大学学習奨励費	-	-	-	12	13
その他の奨学金	3	2	4	3	3
合計	123	140	126	151	141

(出典: 事務局資料)

別添資料 7-2-⑥-1: 入学科免除及び授業料免除の総額に関する内規, 授業料免除選考の申合せ
 別添資料 7-2-⑥-2: 日本学生支援機構の家計急変並びに災害に伴う緊急・応急採用者数
 別添資料 7-2-⑥-3: 留学生のアパート等への保証実績

参照資料 7-2-⑥-ア：授業料免除 ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kezai.html>)
参照資料 7-2-⑥-イ：奨学金制度 ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/syougakukin.html>)
参照資料 7-2-⑥-ウ：国立大学法人佐賀大学予約型奨学金実施規程
(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/768.html>)
参照資料 7-2-⑥-エ：学生寄宿舎（楠葉寮）について ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/ryou.html>)
参照資料 7-2-⑥-オ：アルバイトについて ウェブページ
(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakuseiseikatu/arubait.html>)

【分析結果とその根拠理由】

上記のように、学部及び大学院学生並びに留学生に対して、入学料・授業料の免除、奨学金、寄宿舎の整備などにより、経済面の援助を行っている。平成 23 年度から学部学生に対し大学独自の奨学金として予約型奨学金（かささぎ奨学金）制度を整備し、支援を行っている。これらにより、学生に対する経済面の援助が適切に行われている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 情報基幹ネットワークを全学に整備し、独自開発の「Opengate」システム及びシングルサインオン機能等を介して容易に学内ネットワークに接続できる環境が整備されており、さらに e ラーニングスタジオを中心とした e ラーニングシステムの充実など、先進的 I C T 環境が継続的に整備され、活用されている。
- 附属図書館では、「全学統一英語能力テスト」と連携した蔵書収集、学生希望図書リクエストや学生選書委員を通じた蔵書収集などで貸出冊数を増加させている。また、ラーニング・コモンズやグループ学習室などの自学自習環境を整備している。
- 平成 23 年度からアウトリーチ型の支援を行うキャンパスソーシャルワーカー制度を開始するとともに、平成 25 年度には学生支援室に「集中支援部門」を設置し、障がい（発達障がい含む）を持つなど特別な支援を要する学生への支援に対応しており、より積極的に学生のニーズを把握し対応する取組を始めている。
- ラーニング・ポートフォリオ（LP）を活用したチューター（担任）による学習支援を全学的に導入し、将来像、学習目標・計画、単位修得状況などについての指導・助言を行うとともに、学生カウンセラー等と連携して学生の悩み相談などの生活支援に取り組んでいる。
- 愛校心にあふれ優れた人材を育成することを目的とした大学独自の予約型奨学金制度（かささぎ奨学金）を整備している。
- 就職データの I R 分析を元に、学科等に対し学長がヒアリングを行い、執行部と各学科等による現状の共有と改善策の検討を行い、平成 25 年度及び平成 26 年度は進路不明者をゼロにするなど就職支援策を強化している。

【改善を要する点】

- 卒業・修了後の進路が就職や進学以外の卒業生を生み出すことについて、原因の調査を行い、必要な支援の対策を講じていくことが課題である。